

房総の 文化財

VOL.65

新シリーズ開始【遺跡メモリアルシリーズ】

◆ 1. 東北産頁岩を使った石刃石器群—印西市 荒野前遺跡（旧石器時代）—

◆ 2. 中期中葉～後期の貝塚を伴う環状のムラー—千葉市 有吉北貝塚・南貝塚（縄文時代）—

◆ 3. 弥生時代後期の水田のある風景—木更津市 芝野遺跡（弥生時代）—

【遺跡見学会開催】

◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡見学会

【出土遺物公開事業】

◆ 令和7年度「地中からのメッセージ～古墳・古代・中近世～—千葉県教育振興財団設立50周年記念展part2—」

【財団設立50周年記念事業】

◆ 「掘る女」上映会＆出演者トークショー

発行 | 公益財団法人 千葉県教育振興財団

発行日 | 令和7年11月28日

編集 | テ284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL. 043-422-8811(代) FAX. 043-424-8850
URL <https://www.echiba.org/bunkazai/>

ISSN 0919-0848 Boso no bunkazai



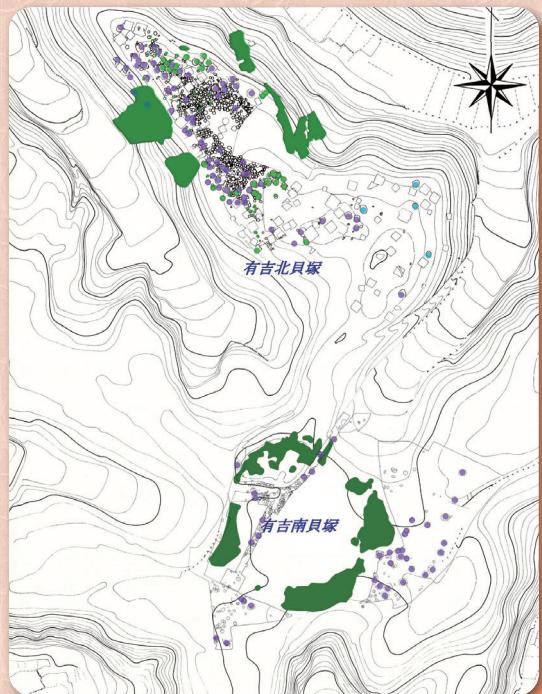
「遺跡メモリアルシリーズ」を始めるにあたり

公益財団法人千葉県教育振興財団は、昨年度、設立50年を迎えました。展示会等で資料の紹介を行ってきましたが、この『房総の文化財』でも、財団の半世紀を振り返り調査成果を広く後世に伝えるため、「遺跡メモリアルシリーズ」として主な遺跡を順次とりあげてゆくことにいたしました。発掘調査当時にわからなくても、その後の研究の進展に伴って明らかとなったこともあります。

時代を、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の6区分に分け、それぞれの時代ごとに重要な遺跡をピックアップし、新しい知見なども踏まえて紹介していきたいと思います。

今回は、旧石器時代・縄文時代・弥生時代から3つの遺跡を紹介します。

2 縄文時代 中期中葉～後葉の貝塚を伴う環状のムラ —千葉市有吉北貝塚・有吉南貝塚—

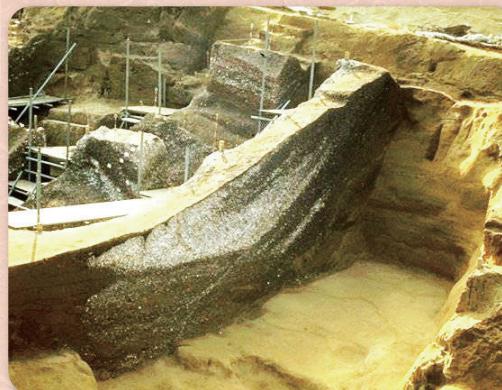


有吉北貝塚・南貝塚 全体図

千葉市は大規模な貝塚が集中することで全国的に知られています。中でも有吉北貝塚と有吉南貝塚は、縄文時代中期の生活の様子を今に伝える貝塚・集落跡です。東京湾に注ぐ村田川右岸の台地に所在し、細尾根によって2つの遺跡が繋がっています。2遺跡とも、中央広場(中央の何もない空間)を中心に内側から土坑、竪穴住居跡、斜面貝層が同心円状にめぐり、環状集落と呼ばれる、大規模な集落に特有の形がみられます。遺跡の形成は北貝塚の方が早く、北貝塚から南貝塚へと集落の中心が緩やかに移っていましたことが分かりました。2遺跡の周辺には小規模な集落跡が確認されており、地域の拠点となる大規模集落とそれをとりまく小規模集落といった集落同士の関係が想定されています。権威を示す装飾品を身に着けて埋葬された人骨も出土しており、集落や、遺跡が所在した地域の重要人物だったと推測されます。このような地域の指導者層の存在からも、有吉北貝塚・有吉南貝塚が地域の中で中心的な役割を果たしていたのではないかと考えられています。

代表的な成果として、厚さ3m以上にもなる大規模な斜面貝層があげられるでしょう。貝層とは、貝殻によって形成される層です。ゴミ捨て場としての性格が強いことから、食料残滓(食べかす)として貝のほかに骨も含んでいます。貝層を詳しく調べることで、縄文時代の人々がどのような動物を食料としていたのかを知ることができ、有吉北貝塚では村田川河口の干潟で採取された貝(イボキサゴやハマグリ)を食べていたことが分かりました。また、ハマグリの大きさの変化から、乱獲とその後の資源保護の様相が確認されています。そのほかに魚類・哺乳類・鳥類といった貝以外の動物資源、ドングリやクルミといった植物など、海や山でとれる食料を多角的に利用していたことから、安定した生活を営むことができたと考えられています。

(小川 慶一郎)



有吉北貝塚 斜面貝層



有吉南貝塚 埋葬人骨

荒野前遺跡

旧 石 器 時 代

約30,000年前

有吉北貝塚・南貝塚

縄 文 時 代

約12,000年前

弥 生 時 代

約2,300年前

BC(紀元前)

1 旧石器時代 東北産頁岩を使った石刃石器群—印西市荒野前遺跡—

北総線「印旛日本医大駅」の傍ら、線路をまたぐ県道65号線の陸橋下にかつてあった遺跡です。高台にある駅と住宅街は、谷津の斜面林に囲まれています。林を抜けると今も豊かな里山が残り、その奥には広大な印旛沼低地が広がっています。

水辺に動物が集まるこの地は、旧石器時代には絶好の狩場だったのでしょう。駅工事に伴う調査では、約32,000～20,000年前の6時期の活動の痕跡が見つかりました。今回紹介するのは、約30,000年前の第3文化層の一群です。東北の頁岩や信州の黒曜石を使った100点以上の石刃とナイフ形石器に対して、石核は1点もありません。さらに石刃は縁辺を剥ぎ取ったり、折って小剥片を剥がしたりしていました。

いくつも峠を越えて、わざわざ千葉まで持ち運んだ石刃を、なぜ打ち欠いてしまったのでしょうか。ヒントは当時の環境にあります。この時期、氷河期はやや暖かいMIS3(6万～29,000年前)から寒いMIS2(29,000～11,700年前)に転換します。森は広葉樹林から針葉樹林に変わり、ナウマンゾウなどの温帯の森を好む大型哺乳類の絶滅が始まったとされています。

文字通り大きな獲物であったナウマンゾウ達が減る中、人々は獲物を確実に仕留めるために移動生活と狩猟に特化していきます。道具の携帯性を高め、大型石刃に特殊化し、良質な石材に依存していきます。その中で好適な狩場がありながら、“石なし”地域である千葉で編み出されたのが、一見無駄にも見えるこの技法でした。刃こぼれを再生する樋状剥離。石刃から新たな道具を作る小石刃生産。遠方から携えた資源を限界まで使い尽くし、環境に最適化するその姿は、まさに究極のSDGsです。
(渡邊 玲)



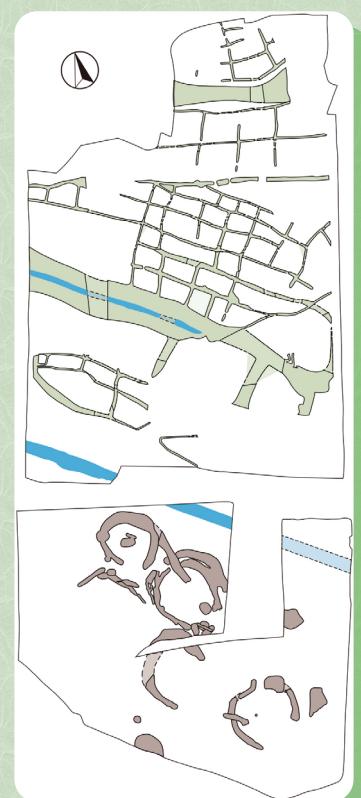
3 弥生時代 弥生時代後期の水田のある風景—木更津市芝野遺跡—

大陸より伝わった水田稲作は、最初に現在の佐賀県や福岡県の玄界灘沿岸付近で始まり日本列島は弥生時代を迎えました。

北部九州で始まった水田稲作は、その後、500年ほどかけて日本海側を進み青森県にまで伝わった一方、中部地方を通じて関東地方に伝わったのは、九州で水田稲作が始まってから約700年後の弥生時代中期になってからでした。こうして、本州の中でも稲作文化の到来に比較的時間と空間を要した地域の良好な水田跡が木更津市にある芝野遺跡で見つかりました。

芝野遺跡は、小櫃川北岸の標高12mの自然堤防上にある弥生時代から中世の遺跡です。平成元年度から平成3年度の3回の調査によって弥生時代後期の水田跡が広がっていたことが分かりました。

水田跡は、大・中・小の3種類の畦畔によって区画された弥生時代後期初頭のもので、遺跡全体が40～50cmの厚さの洪水によって堆積した層に覆われていたため良い状態で残っていました。畦畔は、「あぜ」とも呼ばれ田んぼの中に流し入れた水が外に漏れ出ないように周囲に盛り土をして土手状に囲んだもので、田んぼの世話をするための歩道としても利用されました。芝野遺跡の水田は、水の確保に適した場所であったためか、それまでにもたびたび洪水が起っていたような土地を耕作して水田を営んでいたようですが、弥生時代終わりごろの洪水でとうとう水田を再開することはありませんでした。こうして一気にパックされたため、今日私たちが当時の人々の生活をうかがい知ることとなったのです。
(村松 裕南)



北側に畦畔、南側に円形周溝遺構



佐倉市神門道乗谷津遺跡見学会

見学会は、令和7年7月27日(日)に佐倉第三工業団地内にある佐倉市神門道乗谷津遺跡で開催しました。当日は、古墳時代後期(約1,400年前)～奈良・平安時代(約1,250年前)の竪穴住居跡や掘立柱建物跡



の解説及び同時代の土師器・須恵器等の展示を行いました。

酷暑の中、合計150名の方に御参加いただき、見学した方からは、「遺跡をじかに見られて大変有意義な時間だった」、「古代の竪穴住居跡の図面や説明があり分かりやすかった」等の感想をいただきました。

令和7年度 出土遺物公開展開催

【地中からのメッセージ—古墳・古代・中近世—】

当財団の設立50周年記念展part2－古墳・古代・中近世－を、9月6日(日)より千葉県立房総のむら風土記の丘資料館で開催しました。今年度は、古墳時代以降をテーマに主な資料を展示しています。

古墳時代は、房総で特徴的な埴輪が出土している3古墳9個体の人物埴輪・形象埴輪、古代は房総から日本でもっとも数多く出土している墨書土器を中心に、中近世は城跡出土遺物、大量埋納錢などの遺構・遺物を展示しました。

房総のむらでの展示は10月26日(日)に終了いたしましたが、年が明けた令和8年1月17日(土)から2月23日(月祝)まで、千葉県立中央博物館にて開催します。

表紙(房総2型式の人物埴輪)

右:印西市大木台2号墳出土(下総型 印西市教育委員会所蔵)

左:千葉市人形塚古墳出土(山武型 千葉県教育委員会所蔵)

写真提供 芝山町立芝山古墳・はにわ博物館

裏表紙

右:印西市馬込遺跡出土瓦塔

(古代 資料・写真とも印西市教育委員会所蔵)

左:千葉市廿五里城(つうへいじ)跡出土無量寿經墨書き土器

(中世 千葉県教育委員会所蔵)



財団設立50周年記念行事「掘る女」上映会

当財団の主な活動である発掘調査、考古学の魅力を身近に感じていただるために、映画「掘る女」の上映会を、令和8年1月18日(日)に実施いたします。

上映会には、主演された大竹幸恵さんをお迎えして、トークショーも行います。

映画上映会

場所:四街道市文化センター 予約不要・参加無料
日時:令和8年1月18日(日) 13:00(受付開始)~16:00

◆大竹幸恵 長野県長和町黒耀石体験ミュージアム学芸員

茨城県つくば市生まれ。明治大学大学院博士前期課程修了して現在に至る。

学生時代は千葉県我孫子市で発掘調査に参加するなど、千葉県とも縁が深い。

子どもの頃に拾った黒耀石の石器などがきっかけで考古学に進む。縁あって長和町に就職し、黒耀石体験ミュージアムの建設、縄文時代の黒耀石鉱山の学術調査を進めるなど、子供のころの夢を実現

